

高粱を元気にするための高校生による地域おこし活動

岡山県立高粱高等学校 方谷学実施委員会

活動の目的

高粱地域に居住、通学する高校生を対象として、高粱地域を元気にするための施策についてアイデアを募り、そのアイデアを実行可能とする方法を、地域住民と考え、企画・立案し実行する。高校生が自身の居住、通学する地域の課題について自分事としてとらえ、その改善のために自分たちに何ができるかを主体的に考える活動を通して、若者の視点から見た地域課題に、地域の大人たちと協働して取り組もうとする土壌を形成したい。企画・立案の結果を地域住民に広く周知できるよう協働可能な住民・組織と連携する。自分たちの企画・立案した企画を実行することを通して、高校生が構想力・計画力・実現力を磨き、学校内の活動では出会わない地域の異世代との交流の機会を得ることで、対話力・協働力を身につけることを期待したい。

活動の内容及び経過

教育・保育、社会科学、自然科学、医療・福祉、観光・国際、生活科学の6分野29班に分かれて地域活性化を大きなテーマとする探究活動を行った。企画・立案し実行することができた例として、観光・国際分野の班活動「外国人が住みやすい街づくり」がある。同班は、高粱地域で生活している外国人にとって高粱市がより暮らしやすくなることを目的として活動を開始した。アレルギーや宗教的な問題による食生活の問題を解決するため、食品の原材料名が漢字表記ではなくイラストで分かるような、ポップを制作した。ポップについては、8大アレルギー物質を表示することや、漢字にはふりがなをふったり、外国語表記をすることなど、外国の人にも分かりやすくする工夫・配慮をしている。

活動の成果・効果

上記の班は、高粱市街の大型商業施設と協力して、惣菜コーナーの商品に食物アレルギー表示対象品目と大豆の表示を「ひらがなを含むやさしい日本語」「英語」「インドネシア語」の3つの言語とイラストで表現したポップを制作・設置した。大型商業施設と協働的にポップを制作する活動の中で、分かりやすさをどのように表現するかなど対話的な活動の中で構想することができ、どのようなデザインが適切かなど実現する力を身につけることができた。高粱地域で生活している外国人の多くが使用する言語を記載したことで、外国人の関心を引くことができると考えられる。現在、設置してあまり時間が経っておらず、成果・効果については不明な部分が多いが、今後は外国の人から感想をもらう活動を計画している。



ポップを設置する様子

今後の課題と問題点

ポップの制作・設置を地域の商業施設と協議の上で実行に移した点が成果となる一方、クーポンの制作・設置が、地域住民にもたらす影響の事前検討や検証方法、また地域への周知方法といった点に課題があったと言える。取り組んだ地域社会に対する働きかけについて、その方法・内容を選んだ根拠や意義、それらが地域にもたらす効果を検討する視点を得たり、新しい視点に従ってより良い取り組みを実行に移すなどといった動きを今以上に実現するには、生徒の自主的な活動や教員の指導・支援のみでは限界がある。今後は、生徒・教員と外部人材との連携をさらに進化させる必要があると考える。

- 代表者：鳥越信行 ●所在地：高粱市内山下
- TEL：0866-22-3047 ●E-MAIL：takahasi@pref.okayama.jp
- URL：https://www.takahasi.okayama-c.ed.jp/wp/
- 設立年：2021年 ●メンバー数：5名